

水について考えよう

四万十町立七里小学校 担当教科／小学校全科

曾根 健介

●実践教科:総合的な学習 ●時間数:3時間 ●対象学年:小学6年生 ●対象人数:9名

授業実践のねらい

日本とモンゴルの水事情を比較することで、水の問題について考える。

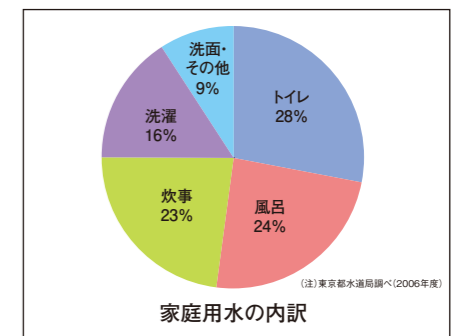
授業実践の構成

時間	テーマ・ねらい	主な学習活動	使用教材等
第1時	わたしたちは、どんなことに水を使っているだろう	家庭で、水を何のために使っているか出し合い、話し合う。	
第2時	わたしたちは、どれだけ水を使っているだろう	どうやって水を手に入れているか考える。 学校にある、水道の蛇口の数を調べる。	
第3時	水の大切さを考える	写真を見て考える。	・写真 ・パワーポイント

授業の詳細

第1時 わたしたちはどんなことに水を使っているだろう

わたしたちは、ふだんの生活の中でどんなことに水を利用しているのか。思いつくままにどんどんあげさせた。すると、家庭生活のたいへん多くの場面で水を使っていることに気がついた。そして日本では、トイレに最も水を多く使っていることを伝えた。



児童の反応

Q 家で水をどんなことに使っていますか。

A 炊事, 洗濯, 食器洗い, お風呂, トイレ, 掃除, うがい, 手洗い, 洗顔, 歯磨き, くつ洗い, 洗車, 水遊びなど, 30項目近くが挙げられた。

- 食べることや飲むこと以外でも、いろいろと水が使われているのが分かった。
- いろんなところに水を使っているんだと思った。
- トイレに水がいちばん使われているのがわかった。
- なぜトイレに水をいちばん使っているのか不思議だった。
- 生活には水が欠かせないと思った。

【所感】

食べることや飲むことに水が必要なことは言うまでもないし、児童も分かっているが、それ以外に水をどんなことに使っているかあらためて考えさせると、生活の多くの場面で水を使っていることを再認識したようだった。特に、生活の中で何にいちばん水を使っていると思うかと問うと、多くの児童が風呂や炊事と答え、実はトイレだということ、びっくりしていた。このデータは東京のもので、児童の生活している地域とは若干異なるかもしれないが、生活の中の多くの場面で水を使っているということには気づいたのではないだろうか。

第2時 わたしたちは、どれだけ水を使っているだろう

家庭生活の様々な場面で水を使っていることを踏まえ、わたしたちはその水をどうやって手に入れているかを考えてみた。そして、わたしたちがどれだけふんだんに水を使っているかということを考えさせるために、学校にはどれくらい水道の蛇口があるかを調べた。



七里小学校内 水道

児童の反応

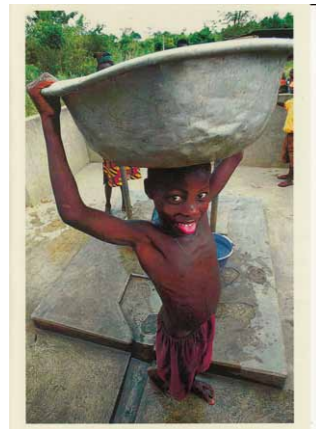
- 日本ではあらゆるところに水道が整備されている
- きれいな水を使うことができる。
- 学校の水道の蛇口の数は、児童数より多い。
- たくさん水を使っている。

【所感】

普段の生活の中で、わたしたちは惜しみなく水を使っている。蛇口をひねればいつでも清潔な水を得ることができる。また、住んでいる地域には豊かな自然があり、四万十川がきれいな水の流れであることも、水生生物調査の結果からも体感している。児童は、学校でもふんだんに水が使えるありがたさを感じることは少ないのではないだろうか。自分たちの生活を振り返り、わたしたちが、水に恵まれた生活をしていることを再認識することが、次時へつながるのではないかと考えた。

第3時 水の大切さを考える

日本とモンゴルの水事情を比較することで、水の大切さについて考えた。



2枚の写真を見せ、持っているものには共通点があることを伝え、何を持っているか考えさせた。児童は、すぐに水を運んでいることに気づいていたので、右の写真の国(モンゴル)のことで話をしていくことを伝えた。



ここには何があるでしょう？

ヒント：皆さんも見たことがあるものです。

児童は初めのうちはなかなか思いつかなかったが、しばらくすると正解が出た。



実はペットボトルを利用して、手洗いの水を出しているのです。

モンゴルの草原に水道を引くことはとてもたいへんです。そこでくんできた水をこうして使っているのです。



こんな形のものもありました。

モンゴルは草原の国というイメージがあるかもしれませんが、草原ばかりではありません。



首都ウランバートルの郊外で、こんな場面に出会いました。

先ほどの写真の女の子たちが水くみに来ています。おじさんは荷車にポリタンクを積んで水をくんでいます。800~1000人ほどの人がこの水道を利用しているそうです。この施設は、JICAという日本の組織が支援して作られたものだそうです。わたしたちの税金が、支援に使われているのです。





実は、他にもいろいろなところで日本からの支援が届けられていました。これはごみなどを運ぶダンプカーのドアにはられていました。「日本の人々より」と書かれています。

児童の反応

- 水道がないので水をくみに行くのはたいへんと思った。早く水道ができてほしいと思った。
- 日本ではあたりまえのように水道があるのにモンゴルでは日本のあたりまえとは違って、自分で水をくみに行かなくてはいけないので、水は大事なんだなとあらためて思いました。
- あらためて、水は大切なものだと思ったし、じゃくちをひねると水が出るのはあたりまえじゃなくて、ぼくたちはめくまれているなと思いました。
- 日本ではじゃくちをひねれば水が出るけど、他の国などでは水をもらいに行かないといけないところとかがあるので、水を大事にしないといけないなと思った。
- 世界の人々が助け合って生きていることがわかった。

授業実践を終えて(成果と課題)

水に関する事に絞って学習を進めようとしていたのだが、支援のことも触れたことにより、学習内容がぼやけてしまった。支援のことについては、また別の機会に授業を行ったほうがよかったのではないかと指摘もいただいた。また、モンゴルの事情の説明に終始してしまったこともあり、児童の意欲的な活動を引き出せなかったことも課題である。

満足のいく授業実践はできなかったが、私にとっては国際理解教育の授業実践ができたことは大きなことである。この教師海外研修に関わる様々な研修を通して得たことをこれから少しずつになるかもしれないが、授業などを通して児童に返していきたいと考えている。

番外編(黒潮町立上川口小学校での授業実践)

モンゴル学習を継続的に実施している黒潮町立上川口小学校の4～6年生、18名を対象にモンゴル学習の一環で授業を行なった。

【ねらい】

- 異文化への興味関心を高める。
- モンゴルの子どもたちの様子を知ること、自分の生活を振り返る。

【授業の構成】

時間	テーマ・ねらい	主な学習活動	使用教材等
第1時	モンゴルをたずねて	モンゴルのクイズをして、モンゴルのことを知る。	パワーポイント



【授業の詳細】

- ① モンゴルについて知っていることをたずねる。
 【児童の反応】 草原の国。ゲルがある。など

- ② 地図を示して、モンゴルの位置を確認する。

【児童の反応】 世界地図の中で、モンゴルの位置を正しく答えられていた。

- ③ モンゴルに関するクイズをする。

- Q1 モンゴルと日本どちらが広い?
 - Q2 住んでいる人はどちらが多い?
 - Q3 モンゴルと日本どちらが寒い?
 - Q4 モンゴルと日本どちらが雨が多い?
- 空港や飛行機の中の様子を写真を見せながら話す。ウランバートルの中心部や郊外の様子を、写真を見せながら話す。



- ④ モンゴルに関するクイズをする。

- Q5 モンゴルで最も多く食べられているのは何の肉でしょう。
- Q6 モンゴル料理の中で、日本の料理と似たものがあります。それは、何でしょう。
- Q7 草原に作られるモンゴルの家はなんというでしょう。
- Q8 ゲルに住む子どもたちはとてもよく働きます。私が出会った子どもたちは、どんな仕事をしていたでしょう。
- Q9 次の写真の子どもたちが手に持っているものは何でしょう。



家畜を柵の中に入れる子どもたち



水を運ぶ少女

子どもたちが家族の一員として、よく働いていることを伝えたかった。いろいろな意見が出ていたが、「ポリタンク」と答えられた児童もいた。ポリタンクに水を入れて運んでいることに気づいていた。

- Q10 何をしているのでしょうか?



手を洗う

和田 加

大西 結加

杉田 亮介

曾根 健介

池田 やよい

今村 加代子

山崎 功子

石原 康代

歯ブラシが写っているのを見て、手を洗っていると気がつく児童がいた。水を大切にしていることに気づいた児童がいた。



日本の小学生が書いた習字の作品を手渡す

地球で暮らす仲間として、水を大事に使い、できる仕事はしてほしいことを伝えた。

児童の
反応

(感想)

モンゴルのお話

上川口小 4年 金子 花

12月13日に同じクラスの康太郎君の父さんが多目的ホールでモンゴルのお話をしてくれました。私が心に残っているのは2つあり、1つは「モンゴル人にとって水とは?」です。私たち日本人にとって水は、蛇口をひねれば勝手に出てくる身近なものだけど、モンゴルではとっても貴重なものだったことです。私は、歯みがき中に水を出しっぱなしにしたり、蛇口を止めわすれていたたり、水をあまり大切にしていなかったのが、今度からは、水を大切にしていきたいです。

もう一つは、「モンゴル人の子どもたちのお手伝い」です。わたしは、あまりお母さんの手伝いをしません。やるといってもそうじくらいです。しかし、モンゴルの子どもは、羊や馬や牛などの世話や、遠い水があるところまで、大きなタンクを持って水をくみ、重いタンクをかついで遠い家まで帰ったりしていることを聞いて、びっくりしました。

私は、同じ地球に住んでいる同じ人間なのに、日本はとてもゆうふくなんだなと思いました。

【授業実践を終えて】

自分の勤務校以外の学校で授業をさせていただく機会をいただけたことにまずは感謝したい。児童の多くはたいへん意欲的で、興味を持って話を聞いてくれた。1時間限りの授業だったので、モンゴルの簡単な紹介と異文化に対する興味付け、そこから自分たちの生活の振り返りができたらと考えていた。クイズを織り交ぜながら、退屈しないように話したつもりだったが、興味を持ってない児童にとっては、やはり遠い国の話でありもう一つ工夫が必要だった。

参考資料

【書籍】

- ・「水の世界地図」第2版 沖 大幹 監訳 沖 明 訳 丸善出版
- ・「平成23年度教師海外研修 モンゴル」JICA四国
- ・「平成21年度教師海外研修授業実践報告書集 MONGOL」JICA

【インターネット】

- ・「国土交通省>日本の水資源の現状・課題>水の利用状況」